

アカシュモクザメの日本縦断輸送

海の中道海洋生態科学館 森 徹，○榎野 宏保，木下 克利

海の中道海洋生態科学館では，平成 7 年よりアカシュモクザメの展示を継続している．アカシュモクザメは頭部が T 字型を呈し，その先端に眼球が位置することから，閉鎖的な環境では壁面に眼球を擦りやすい他，十分な遊泳ができないと潤滑な呼吸ができない等，飼育および輸送が困難な一種である．当館は捕獲から輸送・飼育に対し改良を重ね，輸送距離・輸送時間の延長に伴う生残率を着実に向上してきた．これまで国内の水族館では，関東地方の水族館へ，海外では香港，シンガポール，韓国の水族館へ、輸送や飼育の技術提供を実施し実績を挙げている．

当館では以前より，北海道小樽水族館からアカシュモクザメの輸送および飼育に関する技術提供について打診を受けていた．2007 年 10 月に正式依頼を受けた当館は，鹿児島県笠沙町においてアカシュモクザメ 10 個体を捕獲し，現地の海面生簀（ $8 \times 8 \times 8\text{m}$ ）において約 2 週間蓄容した．その後 6 時間の陸上輸送を経て当館円形予備水槽（直径 5 m 水深 1.8m）に収容し餌付け等環境馴致を行った．小樽までの輸送個体は，蓄容中の遊泳状態，餌への反応が特に良好な 4 個体（T.L.90cm）を選出した．輸送は，11 t トラックに積載したろ過循環および酸素ポンプ装備のコンテナ（ $2.9 \times 2.15 \times 1.05\text{m}$ ）に収容し，3 名の当館職員が交代で運転した．輸送中は約 4 時間毎に停車し、生物の状態確認および水温・DO の測定、活性炭の交換作業を行った．今回輸送に要した走行距離は 2243km，全所要時間は 36 時間に及んだが，全個体無事に小樽水族館の予備水槽に収容することができた．